

A-第2講座「抗炎症成分の薬理学」確認テスト



問1.【炎症について】下欄から適語を選びなさい

炎症部位では、血管の（ ① ）や血流の（ ② ）、血管からの血液成分の（ ③ ）、白血球の炎症組織への（ ④ ）、局所的に産生された物質による神経への刺激などにより、発熱、発赤、腫脹、疼痛を生じ、結果として機能障害が生じる。これを炎症の5兆候という。

- A. 拡張 B. 収縮 C. 増加 D. 減少 E. 漏出 F. 流入 G. 浸潤 H. 吸収

問2.【抗炎症成分の効果の仕組み】下欄から適語を選びなさい

(1) 非ステロイド性抗炎症成分の効果の仕組み

細胞膜のリン脂質から切り出されたアラキドン酸を（ ① ）に変換する酵素＝（ ② ）を阻害することで炎症の拡大を抑える。

(2) ステロイド性抗炎症成分の効果の仕組み

細胞膜のリン脂質から（ ③ ）を切り出す（ ④ ）の働きを阻害することで、炎症プロセスの源流を堰き止めるので、抗炎症作用は強力である。

(3) グリチルリチン酸の効果の仕組み

グリチルリチン酸が腸内細菌によりグリチルレチン酸に代謝されて吸収されると、体内に（ ⑤ ）が増加するので、抗炎症作用などがあらわれる。

(4) 抗プラスミン成分の効果の仕組み

プラスミンは発痛物質である（ ⑥ ）の生成を助けており、抗プラスミン成分はそれを阻害する。

- A. プロスタグランジン B. ロイコトリエン C. ブラジキニン D. リポキシゲナーゼ E. アルドステロン F. コルチゾール
G. コルチゾン H. アラキドン酸 I. リゾリン脂質 J. ホスホリパーゼ A₂ K. カリクレイン M. シクロオキシゲナーゼ

問3.【抗炎症成分の使用上の注意】下欄から最適語を選びなさい

(1) 非ステロイド性抗炎症成分配合の内服薬の使用上の注意

- ・「出産予定日（ ① ）以内の妊婦」は使用しないよう記載があるのは、母体が使用した非ステロイド性抗炎症成分が胎児に移行して、動脈収縮を誘発するおそれがあるためである。
- ・腎臓病、心臓病、肝臓病又は胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人は相談するよう記載がある。このうち、腎臓病と心臓病に負担がかかるのは、プロスタグランジン減少による（ ② ）が減少することが主な理由。
- ・NSAIDs 喘息は、一部の人において、（ ③ ）阻害によるプロスタグランジン E₂ の減少により、アラキドン酸代謝がロイコトリエン産生にシフトし、特にシスティニルロイコトリエンが過剰産生となって起きる。

(2) ステロイド性抗炎症成分配合の外用鎮痒消炎薬の使用上の注意

「水痘、みずむし・たむし等又は化膿している患部には使用しないこと」と記載されているのは、（ ④ ）活性化を阻害する働きによる免疫抑制作用があるからである。

(3) グリチルリチン酸の使用上の注意

（ ⑤ ）が結合する受容体には、コルチゾールも結合することができるため、グリチルリチン酸の代謝物＝グリチルレチン酸によってコルチゾールが増えると、（ ⑤ ）が増えたのと同じ症状があらわれる。

(4) 抗プラスミン成分の使用上の注意

プラスミンは、血栓の主成分（ ⑥ ）に直接働いて細かく分解する。血栓はそれを皮切りに溶かされるので、抗プラスミン成分には、「血栓のある人、血栓症を起こすおそれのある人」は、相談するように注意書きがある。

- A. 12週 B. 12日 C. 心血流量 D. 腎血流量 E. 循環血液量 F. COX-1 G. COX-2 H. NF-κB
I. キニノーゲン J. リポコルチン K. フィブリン L. アルドステロン M. アンドロゲン